



市民みんなで大会をサポート

2017スポンニキ佐渡ロングライド210

5月21日(日)に行われたこの大会では、3,373人が、佐渡の雄大な自然の中を駆け巡り、市民の皆さんとの触れ合いやカメラ撮影などを楽しみました。

約9割が島外からの参加でしたが、島内の宿泊施設減少や、宿泊者のニーズの変化などから、思うように宿泊予約が取れないという状況があり、今回初となる「イベント民泊」事業を実施しました。

「イベント民泊」とは、年1回のイベントにおいて、宿泊施設の不足が見込まれる場合に、旅館業法に基づく営業許可なく、一般の家庭で宿泊サービスを提供できる制度です。

今回、8世帯の方が受入家庭として申し込みがあり、5組8人がイベント民泊を利用しました。

各受入家庭では、参加者と楽しく交流できたようです。参加者も家庭での触れ合いの中で佐渡を感じ、レースとはまた別の思い出となりました。

大会終了後は、佐渡港サポーターズ



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助を受けて実施しました。

クラブの皆さんが、再会を願い、船が見えなくなるまで手を振り、お見送りをしました。

ご協力いただいた多くの皆さん、ありがとうございました。



イベント民泊制度を利用したみなさんにインタビュー!!

受入家庭の笠井さんは?

佐渡の活性化のために何か手伝えることはないかと思っていたところ、今回のイベント民泊をホームページで見つけました。

毎年大会も応援し、その時の参加者の反応や表情に心を打たれ、少しでも力になれたらと思ひ応募しました。

吉田さん、山内さんには気持ちよく過ごしていただけるように、明るく和める雰囲気でお迎えしました。そして万全の状態ですレースに望めるように、準備できるお手伝いはしてあげたいと思いました。

利用したお二人は?

吉田さん(東京都)

今回初エントリーで、一人で来るので地元の人と触れ合いたいと思い利用しました。何度か佐渡へは来たことがあり、みんながあつたかいので、また地元の人と触れ合えたらいいなと楽しみにしていました。来る前には何度か連絡を取りお話ししていたので心配はありませんでした。いろいろ教えていただき、とてもよくしていただきました。

山内さん(胎内市)

今回初エントリーで、ホームページで民泊を見つけ、せっかく佐渡に来るので住んでいる人と交流できるのでいいと思い利用しました。ここを選んだのは、近すぎず遠すぎず、観光も楽しみたいと思ったからです。一人での参加、初めての自転車です笠井さん宅へ辿りつけるかなど心配でしたが、電話で詳しく教えてもらい大丈夫でした。

すべてがはじめてなので、全部楽しみにしていただきました。実際に来てみてとても楽しかったです。



中央左から参加者の山内さん、吉田さん、両端は受入家庭の笠井さんご夫妻